主体的・対話的な学びで「わくわくする授業」を目指して
～教師の熱意が生徒の学びの意欲を高める～

○学校名　吉川市立東中学校
○所在地　〒342－0017　埼玉県吉川市上笹塚３－１０４－１
○電話番号　０４８－９８２－０２４４
○E-mail　yoshi-higashi-jhs@bz04.plala.or.jp
○URL　http://02.yoshikawa-ed.net/higashi/

１　研究主題

（１）研究主題

「学力の向上と学習習慣の確立」
～主体的学びを目指して、深い見方・考え方を育成する～

（２）研究主題設定の理由

本校は、平成30、31年度の２カ年にわたり、埼玉県教育委員会の学力向上研究校指定事業により、「①埼玉県学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果等を活用し、学校におけるPDCAサイクルの確立に向けた、実践的研究を目指す。②加配教員（数学）を配置し小学校の算数の指導との連携を図る。③取組の成果は、次年度の前記調査で検証し、効果のあった取組を県内に普及する。」等の取組を推進することとなった。また、吉川市教育大綱にある「志」教育を受け、「学力」「体力」「非認知能力」を高める授業が求められている。

今年度の埼玉県学力・学習状況調査の結果について分析を行ったところ、本校の生徒の実態として以下のことが明らかとなってきた。

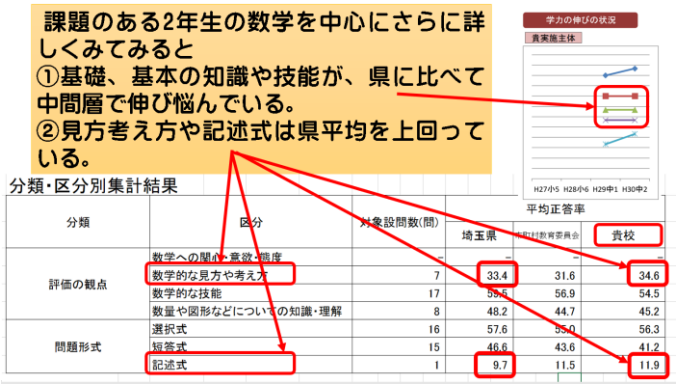
ア　学力レベルについて、１～３年生ともに国語、数学は県平均と同程度であり、英語は、県平均を上回っている。しかし、学力の伸びに目を向けると、２、３年ともに数学に課題が見られる。

イ　課題のある２年生の数学を中心にさらに詳細に分析を行ったところ、次のことが明らかになった。

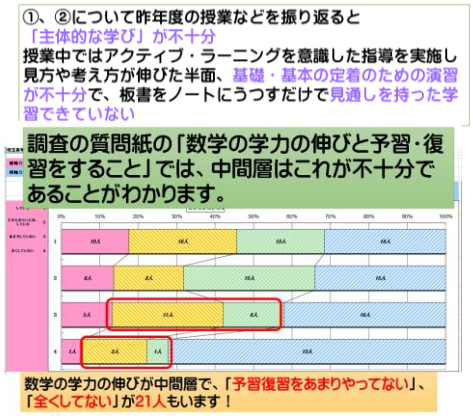
①　基礎、基本の知識・技能において、県平均と比較して中間層で伸び悩みが見られる。

②　「数学的な見方や考え方」、記述式問題は県平均を上回っている。

昨年度、アクティブ・ラーニングの実施を推進することで、生徒に考えを比較検討させるなど「数学的な見方や考え方」に向上が見られた半面、反復学習時間の不足のためか、基礎・基本の定着に課題が見られた。分析支援プログラムを活用して調べたところ、「数学の学力の伸びと、予習、復習をすること」には、一定の関係性が見られたことから、中間層は、この部分が不十分であると推察される。また、環境などの変化に伴う中１ギャップの影響も考えられる。以上のことから、本研究主題を設定し、数学を中心としながら、全教育活動で研究を進めることとした。



分類	区分	対象設問数(問)	埼玉県	市町村教育委員会	貴校
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	－	－	－	－
	数学的な見方や考え方	7	33.4	31.6	34.6
	数学的な技能	17	55.5	56.9	54.5
	数量や図形などについての知識・理解	8	48.2	44.7	45.2
問題形式	選択式	16	57.6	55.0	56.3
	短答式	15	46.6	43.6	41.2
	記述式	1	9.7	11.5	11.9



２　研究の実践

（１）現状と課題を踏まえた仮説

研究指定内容及び本校生徒の実態から、学力向上を推進するために、次の４つの仮説を立て、研究を始めることとした。

ア　学力の伸びが見られた教科や問題の概要に関して、授業等を検証し、効果的な指導方法等を学校全体で共有することで、学力を伸ばすことができるであろう。

イ　「コバトンのびのびシート」などを活用し、学力の伸びが見られた生徒とそうでない生徒の１年間の学習状況や生活などを分析し、その結果に基づく取組を行うことで、「学力」や「学習方略」「非認知能力」の向上につながるであろう。

ウ　単元ごとにロードマップ（学習の進め方）を生徒に提示し、学習の見通しをもって取り組ませれば、学力を伸ばすことができるであろう。

エ　中１ギャップの解消のために、小学校の算数の学び方と数学の学び方の連携を図ることが学力向上につながるであろう。

（２）研究組織

研究仮説をもとに、今年度の研究体制を組織した。研究推進委員会において、研究の全体計画、研究の具体的な取組内容を立案し校内研修を計画、実施した。さらに、研究の進捗状況を確認、研究内容を修正しながら研究のまとめを行った。

また、研究を推進するために「深い学び部会」と「非認知部会」を設置した。「深い学び部会」では教師の発問や話し合い活動など、生徒が主体的になるような授業の研究を行った。また、家庭学習などに課題があるため、見通しをもたせた学び方などを検討した。

「非認知部会」では学力・学習状況調査などを分析し、仮説などの検証を行った。「コバトンのびのびシート」を作成し、生徒の学力の伸びとその要因の究明を行った。また、中１ギャップの解消のために、学級活動を中心に学級経営について検討を行った。

（３）仮説をもとにした研究の具体的内容

校内研修において各組織で検討した結果を踏まえ、次の取組を行い、検証を行っていく。

ア　基礎基本の知識や技能を高めるために

・授業の中で演習時間を確保し、小テストを繰り返し行う。
・復習時に大切なことが分かるようなノートのまとめ方を身に付ける。
・年間計画の見直しを行い、アクティブ・ラーニング、演習の時間をバランスよく位置づける。
・本校で日常的に実施している独自の学力向上問題テスト、「みどりの森（1年）、学習の塔（２年）、あおばテスト（３年）」に、コバトン問題集を活用し、基礎基本の定着を図る。

イ　話し合い活動を充実させるために

・学級活動を見直し、好ましい人間関係づくりをはぐくむ学級指導や「東中話し合いスタンダード」をつくりあげる。
・自分の考えを持ち、人前でそれが発表できる生徒を育成する。
・クラスで何事にも目標をもって取り組める学級をつくる。

ウ　授業の改善を行う（学校全体の研修）

・導入（つかむ）→展開（考える）→まとめ（理解し、理解を深める）のように、１単位時間、１単元の学びに見通しをもたせて授業を展開しアクティブ・ラーニングで友達と協働して進め、理解を深める。
・まとめの過程では、理解したことを、自分の言葉でまとめさせ、可能な限り振り返りの問題を解かせる。
・全国学力・学習状況調査の調査問題を教員全員で解き、どのような授業が求められているか検討する。

・授業研究会を行い、**指導案検討（P）、研究授業（D）、協議（C）、授業改善（A）のサイクル**で教科をこえて「よいもの」を自分の授業に取り入れてみる。

常に本時のねらいを意識しながら授業を進めていきます!
アクティブ・ラーニングの授業で、いろいろな考え方を交換しながら
自分の考え方の引き出しを増やしていきます!
そして、さらにそれを利用して考え、自分のことばで表現していきます!

エ　保護者との連携

・保護者が、生徒の家庭学習の取組状況を評価する。
・保護者に、生徒の家庭学習の取組状況を把握してもらう。
・学校だよりや「コバトンのびのびシート」で、生徒の学びの状況を伝え、学力の伸びなどの頑張りをほめたり励ましたりする材料とする。
・学校保健委員会主催の講演会で「脳のはたらき」などの講話を聞く。

あじさい　11月

吉川市立東中学校
学校だより

平成３０年１０月２７日

生徒数
１年生　１３９名
２年生　１６５名
３年生　１８１名
合計　４８５名

〒342-0017
住所　吉川市上笹塚 3-104-1
電話　048-982-0244

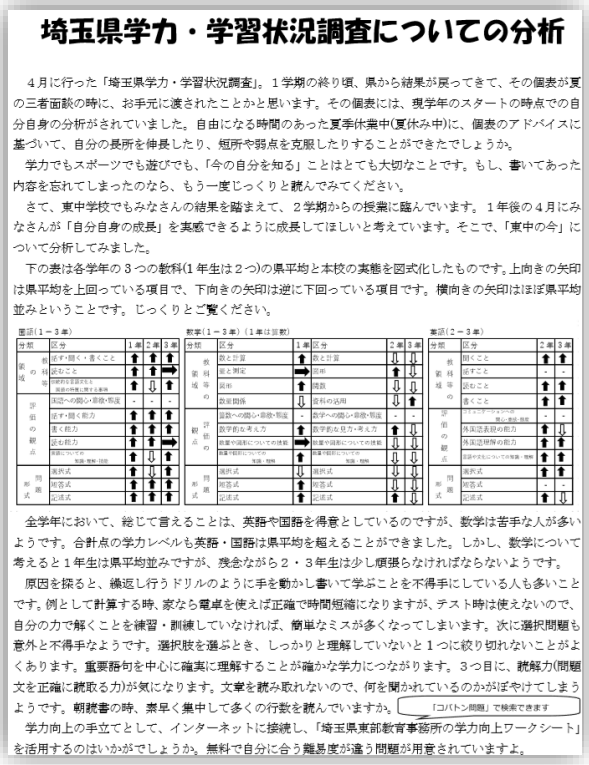
脳のしくみを生かした　学習のコツ

校長　前田　稔

１０月１６日（火）の４校時に「学校保健委員会」を開催しました。今年度も全校生徒参加とし、「脳のしくみを生かした学習のコツ」をテーマに、本校スクールカウンセラーの藤原一夫先生からお話をいただきました。藤原先生からの質問に対して、恥ずかしがらずに挙手をして発表する生徒達の姿は、東中の生徒の素直さが感じられ、誇れるところです。中学生にとって、身近で興味を引く話題を提供していただき、時間が短く感じました。記憶をつかさどる脳の働きや場所の説明をしていただき、後半部分は、学習のコツについての内容でした。保護者の皆様方にも、参考になる部分があるので紹介します。

○記憶をより確実にするためには復習が大事である。理想的には１か月以内に４回。１回目は翌日。２回目は１週間後。３回目は２週間後。４回目は１か月後。
○記憶のためには、手を動かして書くこと。声を出して読むこと。教科書は声を出して読むこと。
○辞書やネットで詳しく調べると、そのことで体験しているようになり、覚えやすくなる。体験したことは覚えやすい。
○記憶は寝ているとき脳の中で行われ、効率よく行われるためには８時間の睡眠が大切。
○睡眠の質をよくするためには、スマホなどの青い光を寝る２時間前には見ない。
○寝ると成長ホルモンが出る。１１時から２時が一番出ると言われている。
○朝日を浴びると体内時計がリセットされる。　等々です。

今回の藤原先生のお話の感想を、校長室の掃除をしてくれるメンバー一人一人に聞いてみました。「睡眠の大切さがわかった」「脳が記憶する順序がわかった」「テスト勉強でも夜更かしはダメで、効率的な学習法があることがわかった」「自分にもできることが多かったので、生かしたい」「テスト前に教えてほしかった（笑）」でした。



埼玉県学力・学習状況調査についての分析

４月に行った「埼玉県学力・学習状況調査」。１学期の終り頃、県から結果が戻ってきて、その個表が夏の三者面談の時に、お手元に渡されたことかと思います。その個表には、現学年のスタートの時点での自分自身の分析がされていました。自由になる時間のあった夏季休業中(夏休み中)に、個表のアドバイスに基づいて、自分の長所を伸長したり、短所や弱点を克服したりすることができたでしょうか。

学力でもスポーツでも遊びでも、「今の自分を知る」ことはとても大切なことです。もし、書いてあった内容を忘れてしまったのなら、もう一度じっくりと読んでみてください。

さて、東中学校でもみなさんの結果を踏まえて、２学期からの授業に臨んでいます。１年後の４月にみなさんが「自分自身の成長」を実感できるように成長してほしいと考えています。そこで、「東中の今」について分析してみました。

下の表は各学年の３つの教科(１年生は２つ)の県平均と本校の実態を図式化したものです。上向きの矢印は県平均を上回っている項目で、下向きの矢印は逆に下回っている項目です。横向きの矢印はほぼ県平均並みということです。じっくりとご覧ください。

国語（１－３年）

分類	区分	１年	２年	３年
教科等の領域	話す・聞く・書くこと	↑	↑	↑
	読むこと	↑	↑	→
	言語文化に関する事項	↑	↓	↑
学習の観点	国語への関心・意欲・態度	-	-	-
	話す・聞く能力	↑	↑	↑
	書く能力	↑	↑	↑
	読む能力	↑	↑	→
	言語について	↑	↓	↓
	知識・理解・技能			
形式	選択式	↑	↓	↑
	短答式	↑	↑	↑
	記述式	↑	↑	↑

数学（１－３年）（１年は技能）

分類	区分	１年	区分	２年	３年
教科等の領域	数と計算	↑	数と計算	↓	↓
	量と測定	→	図形	↑	↓
	図形	↑	関数	↓	↓
	関数	↓	資料の活用	↓	↑
	数量関係				
学習の観点	算数への関心・意欲・態度	-	数学への関心・意欲・態度	-	-
	数学的な考え力	↑	数学的な見方・考え方	↓	↓
	数量や図形についての技能	→	数量や図形についての技能	↓	↓
	数量や図形について	↑	数量や図形について	↓	↓
	知識・理解・技能		知識・理解・技能		
形式	選択式	↓	選択式	↓	↓
	短答式	↑	短答式	↓	↓
	記述式	↑	記述式	↑	↓

英語（２－３年）

分類	区分	２年	３年
教科等の領域	聞くこと	↑	↑
	話すこと	-	-
	読むこと	↑	↑
	書くこと	↑	↑
学習の観点	コミュニケーションに関心・意欲・態度	-	-
	外国語表現の能力	↑	↓
	外国語理解の能力	↑	↑
	言語や文化についての知識・理解	↑	↑
形式	選択式	↑	↑
	短答式	-	-
	記述式	↑	↓

全学年において、総じて言えることは、英語や国語を得意としているのですが、数学は苦手な人が多いようです。合計点の学力レベルも英語・国語は県平均を超えることができました。しかし、数学について考えると１年生は県平均並みですが、残念ながら２・３年生は少し頑張らなければならないようです。

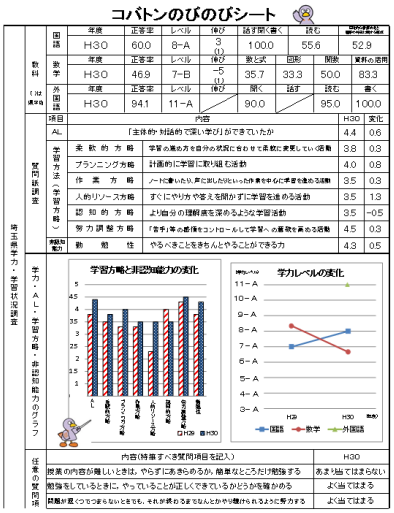
原因を探ると、繰返し行うドリルのように手を動かし書いて学ぶことを不得手にしている人も多いことです。例として計算する時、家なら電卓を使えば正確で時間短縮になりますが、テスト時は使えないので、自分の力で解くことを練習・訓練していなければ、簡単なミスが多くなってしまいます。次に選択問題も意外と不得手なようです。選択肢を選ぶとき、しっかりと理解していないと１つに絞り切れないことがよくあります。重要語句を中心に確実に理解することが確かな学力につながります。３つ目に、読解力(問題文を正確に読取る力)が気になります。文章を読み取れないので、何を聞かれているのかがぼやけてしまうようです。朝読書の時、素早く集中して多くの行数を読んでいますか。

「コバトン問題」で検索できます

学力向上の手立てとして、インターネットに接続し、「埼玉県東部教育事務所の学力向上ワークシート」を活用するのはいかがでしょうか。無料で自分に合う難易度が違う問題が用意されていますよ。

オ　個別相談の定期的な実施

・「コバトンのびのびシート」を活用して学習過程を振り返り、自分の伸びたところや伸びていないところの要因に気付かせアドバイスをしていく。
・話し合い活動をする際の人間関係を教師が把握し、必要に応じた指導を行う。
・県学調の個人結果票や「コバトンのびのびシート」の伸びの面でマイナスが著しい生徒の学習状況などを聞き取り調査し、改善策を講じる。



カ　小中の連携を図る

・週１回、小学校の算数の授業を、中学校の教員も参観できる機会を設ける。
・小学校の授業の良い点を、中学校でも共有する。
・市教育研究会算数数学部会や、小中連絡会などで小学校の先生に、中学校の授業を参観していただき、指導法などについての協議を行う。
・夏休みに、地区小・中学校の合同研修会を実施。

小学校では、考える時間を十分にとりながらていねいに指導しています。

①授業開始で本時のねらいを確認!
②既習の学んだことをふりかえらせながら
③まず、ひとりで考え
④ともだちの考えとくらべながら
⑤1時間のまなびをまとめます。
⑥まなんだことをつかって、
　考えを深めます!

そして、中学校でも、○○でこの考え方を発展させていきます・・・・と伝えます!

・１学期に、**中１ギャップの改善のため**の、１年生職員と、４小学校（栄小・三輪野江小・旭小・関小）間での生徒の情報交換を実施する。

３　研究によって期待される成果

以上の研究を通し、次のような成果が期待できると考えている。

（１）平成31年度の県の学力・学習状況調査の結果から

①学力を伸ばした生徒の割合がどの学年も80％以上になる。
②学習方略、非認知能力の数値が２、３年は、0.2伸びる。１年生は県の平均を0.1上回る。
③家庭学習がほぼ毎日続く生徒が、90％になる。
④作業方略（ノートに書いたり、声に出したりといった作業を中心に学習を進めること）が県平均以上になる。

（２）学校評価アンケートから

ア　「家庭学習を毎日続けるようになった」と回答する保護者の割合が、90％以上になる。
イ　「我が子が我慢強くなった」と回答する保護者の割合が、70％以上になる。